

の三編について、第四編は参考文献として農業全書などの農書より、藍関係部分を抜粋しており、第五編は各文献の解題を付し、付録として阿波藍に関する主要統計が、明治以降の統計書より作成され付加されてある。

このように本書は、文献のみならず統計も含んでいて、これにより阿波藍の時代的展開やその比重を窺うことのできる豊富な内容をもっている。しかも刊行に当っては、原本挿図をも写真図版として含め、綿密な考訂が行われているように思われ、解題また懇切であり、蒐集に際しての苦心の程を充分察することが出来る。恐らく本書は、その内容・出来栄えからいつて、私どもの渴を癒すものと云えよう。

末筆ながら、かかるすぐれた文献集を刊行された三木産業株式会社、社長三木与吉郎氏ならびに三木文庫後藤捷一氏の御努力に対して厚く敬意を表するとともに、今後とも、その修史事業を続行されることを切望して、簡単な紹介の筆をおきたいと思う。

(A5判五四〇頁 昭和三五年一月 三木産業株式会社刊 非売品) (脇田 修)

学界消息

史学研究会関係

二月例会

三月六日(土)午後一時 於楽友会館

民族研究からみたチベット問題

川喜田 二郎氏

チベット王の住居について

佐藤 長氏

国史関係

読史会三月例会

三月十二日(土)午後一時

於陳列館演習室

近世本願寺教団確立の前提 児玉 識氏

八時間労働日制の実現と

その意義

佐々木隆爾氏

読史会予餞会

二月二十九日(月)午後三時

於楽友会館

本年度卒業生八名はじめ、小葉田・赤松・柴田教授、岸・上横手助教授、先輩から井

川定慶・奈良本辰也・平山敏治郎氏らの参加を得て、すこぶる盛会裡に、卒業生の前途を祝した。

東洋史関係

予餞会 二月二十七日(土)

昭和三五年卒業生の予餞会は二月最後の土曜日、楽友会館バーラーで開かれた。宮崎教授はじめ教官・先輩・学生三八名が列席し、昼食を共にし、「予餞会の今昔」などなごやかな話題の中に門出を祝った。

旧制大学院例会

一月例会 一月一九日(土)二時 楽友会館

明代監生の出身について

谷 光隆

北周政權の成立

兼子秀利

二月例会 二月一三日(土)二時

楽友会館

スタイン文書(63)に於ける租税等

善峰憲雄

朝鮮の現状と平和的統一問題について

李 大熙

三月例会 三月一二日(土)二時

楽友会館

清代の商人

笹本重巳

中近東の近況

中谷英雄

『東洋史研究』合評会

一八卷一・二号合評会 一月一九日
 一八卷三号合評会 二月一二日
 一八卷四号合評会 四月三〇日
 いずれも、史学科会議室にて開催。

西洋史関係

西洋史読書会第七回春季大会

四月二十九日(金) 京大文学部第八講義室
 ミュンケナイ時代における戦車について

藤 藤 謙三

リニクルゴスの立法伝説管見

——その結構について—— 新村祐一郎

Praefectus urbi

浅 香 正

叙任権闘争直前期におけるドイツ王権と

ザクセン貴族支配制 早川 良弥

プロイセン保守主義と三月革命

——シュタールを中心に—— 望田 幸男

チエッコ民族主義の二つの途 広実源太郎

ロシアにおける労働者運動 河村 盛一

ドイツ諸都市をたずねて

——スライド使用—— 西井 克巳

歴史的個人の心理学的解釈について

友寄英一郎

近代史学の成立をめぐる

前川貞次郎

なお当日には服部春彦氏が第二回西洋史研究
 究室賞として、原奨学資金受賞の榮に浴し
 た。

地理学関係

地理学教室卒業論文発表会及び予餞会

二月二七日(土) 午前十時より

学部卒業生七名、修士課程修了者六名の論
 文発表会を教室において開き、その後、木
 屋町三条東洋亭において予餞会を行なつ
 た。参加者は織田教授以下教官、先輩、学
 生約五〇名。一同、新卒業生の前途を祝し、

その抱負をきき、歎を尽くした

人文地理学会35回例会 二月二〇日

於京都大学文学部

共通テーマ「島」

喜界島

池野 茂

利尻島

杉本 尚次

島嶼経済の変質過程

河野 通博

人文地理学会36回例会(兵庫地理学協会と共
 催)

四月一六日 於神戸大学経営経済研究所

ヒマラヤ地域の自然と生活

中尾 佐助

京都大学卒業論文題目

国史学専攻

愚管抄に關して

楠 信也

何鹿地方における蚕糸業の発展について

四方 洋

初期社会主義思想について

——幸徳秋水を中心に—— 日野出英彦

幕末の幕府産物会所設立計画

とその流産——幕末・幕政改革における

經濟政策をめぐる—— 前田 武

隅外・森林太郎の思想構造 俣野 武夫

水利組合と農村支配——新潟県越後平野

南部の一水利組合(通称刈谷田川大堰)

について江戸時代から明治前期にかけ

ての調査—— 松永 靖夫

幕藩体制下における地主制 宮城 公子

幕末期に於ける寄生地主的土地所有の構

造——越後国三島郡七日市村山田権左

衛門家の場合—— 山田 良美

〔修士課程〕

中世末期近江の商業

麻野 晴子

品部雑戸制論

——その成立と機能——
狩野 久
西国真宗の特質とその展開
児玉 識

——近世本願寺教団発展の前提——
日本における工場労働者階級の発達

佐々木隆爾
大名領国の成立とその構造
豊田 元彦

——大友氏の場合——
近世的体制の解体過程
芝原 拓自

——長所藩幕末藩政改革論の再検討——
明治二十年代ナショナリズムの基本性格
広田 昌希

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

地主制の経済構造
高沢 裕一

中世社会成立の基礎過程
戸田 芳美

日本中世における商品流通の問題点
三浦 圭一

東洋史学専攻

高句麗諸城の起源と発達
小谷 仲男

明代の軍戸制について
上村 浩

唐宋の変革と使職
礪波 護

——特に三司使の成立について——

北宋時代に於ける宋と西涼府及び青唐族

との関係
中山 斉

俺答汗とその時代
若松 寛

——明代蒙古社会の一考察——

〔修士課程〕

——ジャフバズについての一考察

——十世紀イスラム帝国の金融業者の

研究——
岡崎 正孝

明代江南に於ける官田の性格
森 正夫

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

捻党と渾軍
小野 信爾

明代における北辺の経済構造について
寺田 隆信

西洋史学専攻

第二共和政に於けるカトリック

——ボナパルティスム成立に關する一

考察
泉井 薫

T・V・A……アメリカ民主主義の限界
稲垣 武

ローマ共和制末期の契約法について

——諾成契約について——
古沢 文吾

中世初期の Westfalen に於ける村落と

貴族支配
鈴木 利章

農奴解放前のロシアにおける工業の発達

——イヴァノヴォ村を中心に——

谷 弘行

一九三〇年代前半期のフランスに於ける

労働の条件

——シモース・ウェーユの工場体験と

その思想——
中野 賢

——ウィルソンの「新しき自由」についての

一考察
野入 博子

産業革命における石炭業製鉄業の発展

——労働力の供給及び労働者の生活に

ついて。主として South Wales の場

合——
本村 義之

〔修士課程〕

スバルタの制度とリニクルゴス伝説

——十九世紀プロイセン保守主義の一考察
新村祐一郎

——シニタールの政治思想を中心にし

て——
望田 幸男

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

「改革の時代」について

——二十世紀初頭アメリカ社会の展望——

——ドイツ三月革命への一前提
志邨 晃佑

——ライン初期自由主義者を中心に——

——

——

——

地理学専攻

中山 斉

谷 弘行

末川 清

四国吉野川流域平野の農業地理学的考察

応地 利明

東海陶業地域における四日市万古陶磁器工業について

大津 一郎

探検の歴史から見たチベットの地理について

酒井 敏明

生駒山脈東西両面における農業

中村 文雄

明治前期葉煙草生産の地理学的検討

林 俊正

明治十年前後より専売制実施に至る

舟場 正富

紀北の織物工業

その変遷史的考察

我が国製塩業の地理学的考察

〔修士課程〕

明治前期町村制度の地理学的研究

——とくに滋賀県の場合——

近世初期における村落の復元

——土佐国検地帳を通して——

地動地球説よりみた近世日本地理学の意義

——山片蟠桃・司馬江漢を中心として——

水田単作地帯における海岸砂丘地の農業

——越後平野海岸砂丘地の場合——

長野県における労働力需給の地理学的考察

坂本 英夫

塚田 秀雄

地方政治地域と経済的自立性

——上野市を例とする機能地域研究の一視点——

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

社会領域と結節地域

考古学専攻

〔修士課程〕

〃スキタイ〃文化の基本的諸問題

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

ウル「王墓」の被葬者について

小野山 節

最近、各位からの会費納入が思わしくなく、ために財政的に重大な影響をうけています。滞納のある方は至急御納入下さいますとともに、できるだけ前納下さるようお願いいたします。

なお、御納入会費に対し、必要とされる方以外には、領収書は特に差上げませんが、「お知らせ」にその旨記入、捺印いたしておりますから、お確かめ下さい。

史 学 研 究 会

振替京都五一五五番

編集後記

青葉のにおいを含んださわやかな風の吹きわたる季節になりました。本号のお届けが印刷所の都合で、常よりはいささかおそくなりました。

本号は期せずして近代史を取扱われた論考が集中いたしましたので、蘭田氏の続篇は次号にまわさせていただきますになりました。

蘭田氏並に期待していらつしやいました方々に深くお詫び致します。

梅雨、そして夏、暑くなつてゆきますが、会員の方々の御精励の結晶がどしどしと編集机上に集中せんことを期待して居ります。

（横山 裕男）

史 林

（第四三巻 第三号）

一九六〇年四月二五印刷

一九六〇年五月二日発行

定価一八〇円

発行所

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部内

史 学 研 究 会

振替京都五一五五番

理事長 宮崎市定

編集主任 赤松俊秀

京都市下京区西七条御所ノ内栗町三九

印刷所

中村印刷株式会社